

爆音映画祭2018

ロシュフォールの恋人たち/イレブン・ミニッツ/アンダーグラウンド完全版

同志社大学寒梅館 ハーディーホール ®®®









近年のハリウッド製映画を観ると、3D作品が一気になくなり、その代わりにドルビーアトモスをはじめとする映画の「音」を特徴づけた映画が急に増えてきた、そんな印象を受けます。『メッセージ』『ダンケルク』『ブレードランナー2049』など、ハリウッド映画が新たな映画の音を獲得したかのような、つまり、映画の音の革命が気付いたら起こっていたかのような、それまでの音との大きな断絶を感じたりしています。いったい何が変わったのか?

今回上映する3作品は、それらのハリウッド製 映画の音の変化とはまったく関係ありません。 時代も作られた場所も、ユーロ圏の映画というこ と以外はバラバラ。それゆえ、それぞれの映画 における映画の音へのアプローチの違いをはっき りと見ることができるのではないかと思います。 ヌーヴェルヴァーグの時代のミュージカルである 『ロシュフォールの恋人たち』は、それまでのミ ュージカルとは一線を画した音作りをしているは ずです。ユーゴスラヴィアの変遷を5時間かけ て語る『アンダーグラウンド』完全版の喧しさは、 いわゆる映画音楽の範疇を踏み越えてわたした ちに具体的な何か、物質としての音をぶつけてく るのではないでしょうか。そして京都でも夏には 1971年に作られた伝説の映画『早春』が公開さ れるイエジー・スコリモフスキ監督の今のところ の最新作『イレブン・ミニッツ』で反復される時間 とそれに寄り添う音は、わたしたちの時間間隔を 確実に押し広げることになると思います。

この半世紀における映画と音との関係の変化を、今回の3作品に見て取ることは容易にできると思います。つまりヌーヴェルヴァーグによって変えられた映画の音、そこからさらにはみ出してくる音の物質性、そしてそれがそれを観る人間の身体感覚を変える。そんな流れの中に、ハリウッド製映画の音の変化もあるはずです。変わったのは映画の音だけではなくわたしたちの身体感覚の方かもしれません。そんな自分の変化にも気を配りつつ、3作品を堪能していただけたらと思います。

------桶 ロ 泰人(boid 主宰/爆音上映&爆音映画祭プロデューサー)

スケジュール 開場は各回15分前を予定 ※各作品上映前に樋口泰人による解説あり

5月31日(木) 各回入替制

16:30 ロシュフォールの恋人たち

19:00 イレブン・ミニッツ

6月1日(金)

14:30 **アンダーグラウンド**完全版 ※前編 (エピソード1~3)、後編 (エピソード4~6) に 分けての上映となります。

料金

『ロシュフォールの恋人たち』『イレブン・ミニッツ』 一般 1,300 円、Hardience 会員・学生 1,000 円 『アンダーグラウンド完全版』

一般 2,000 円、Hardience 会員・学生 1,700 円 ※同志社大学学生・教職員 (同志社内諸学校を含む) は全作無料

爆音映画祭in京都2018 開設 : 圖爾



『シェルブールの雨傘』でミュージカルの新たな時代を切り開いたジャック・ドゥミが、ミシェル・ルグラン、カトリーヌ・ドヌーヴと再度コンビを組んで作り上げたミュージカル。ドヌーヴと実姉のフランソワーズ・ドルレアックの共演も話題だが、まさにヌーヴェルヴァーグの音の洗練とも言える、ドゥミとルグランの作り上げた音の世界を堪能していただけたら。 儚くドリーミーな世界の響きが、何かの終わりと何かの始まりを伝えてくれるはず。

ロシュフォールの恋人たち

Les demoiselles de Rochefort

1967年 | フランス | 127分 監督:ジャック・ドゥミ 出演:カトリーヌ・ドヌーヴ、フランソワーズ・ドルレアック ほか ©Cine-Tamaris



ある日の17時から17時11分まで。その11分間に起こった出来事をさまざまな角度から描く81分。10人を超える登場人物たちの日常と非日常とが11分の中で交錯する。その時間の反復は、いったい彼らに何を引き起こすのか?また、81分に引き伸ばされた11分は、それを観るわたしたちにどんな変化を引き起こすのか?繰り返されるストゥージズ「アイ・ウォナ・ビー・ユア・ドッグ」のベース音とともに、その変化を感じていただけたら。

イレブン・ミニッツ 11 minutes

2015 年 | ポーランド・アイルランド | 81分 監督:イエジー・スコリモフスキ 出演:リチャード・ドーマー、ボイチェフ・メツファルドフスキ ほか © 2015 SKOPIA FILM, ELEMENT PICTURES, HBO, ORANGE POLSKAS A., TVP S.A., TUMULT



通常公開された『アンダーグラウンド』よりさらに2時間以上長い5時間14分。ユーゴスラヴィアが辿った歴史の渦の中に、観客もろともこれでもかと叩き込む。その力業。もちろんそれくらいでユーゴの歴史をわかったつもりになっては困る。そんなものはまだ序の口。この歴史の計り知れなさ。誰も全貌を観ることなどできないのだ。ただそれだけを体感する5時間。

アンダーグラウンド完全版 Underground

1995年 | フランス・ドイツ・ハンガリー | 314分 監督:エミール・クストリッツァ 出演:ミキ・マノイロヴィッチ、ラザル・リストフスキー ほか © MCMXCV by CIBY 2000-All rights reserved

●テレビ放映用につくられた6エピソードから成る特別編集パージョンです。
●前編(エピソード1~3)、後編(エピソード4~6)に分けての上映となります。
●エピソードごとに、オープニング&エンディング・クレジットが流れます。
●上映素材は、権利元に高解像度(HD)マスターがなく現存する唯一の標準解像度(SD)マスターを使用しています。ハイヴィジョン映像ではないため、画面の解像度の悪さをご了承ください。

とは、通常の映画用の音響セッティングではなく、音楽ライヴ用 の音響セッティングをフルに使い、ボリュームを限界まで上げ大音響 の中で映画を見・聴く試みです。一般劇場上映では聴くことの出来ない迫力と、その爆音によって視覚までもが変容して映画そのものも違って見える。大音響でなければ聴こえてこない幽かな音を聴くという、大胆かつ繊細な上映となります。

主催: boid、同志社大学図書館、同志社大学今出川校地学生支援課作品提供:マーメイドフィルム、ハビネット協力: コピアポア・フィルム 機材協力: モノリス (457)

WOT MONOLITH

同志社大学寒梅館ハーディーホール®®

お問合せ: 同志社大学今出川校地学生支援課 Tel: 075-251-3270 E-mail: ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp 京都市上京区御所八幡町103

市営地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、2番出口より北へ徒歩約2分。 駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

